

登録コード	E7119300	開講年度	2026				
授業科目	教育課程演習					担当教員	伏木 久始
英文授業名	Seminar of the School Curriculum					副担当	
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	火曜・5時限	対象学生	2～4年生，研究生
講義室	教育N304講義室		授業形態	演習	遠隔授業科目	備考	
信大コンピテンシー該当							
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	26Eカリ，25Eカリ，24Eカリ，23Eカリ，22Eカリ，21Eカリ，20Eカリ						
	教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観				教育現場に求められる人権意識と倫理観を高めることができる。		
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能				教育課程の編成理論とカリキュラム開発について理解できる。		
(2)授業で学べる「テーマ」	地域運営						
(3)全学横断特別教育プログラム	ローカル・イノベーター養成コース						
(4)授業の概要	この授業は学校参観を前提とした課題解決学習の応用編を提供する。また，教育課程に関する文献を読み込んだり、教育課程を編成するアイデアを議論したりするゼミ形式の演習となる。地域社会と学校の関係性を多面的に学びながら、地域課題の解決に求められる知識とスキルを学び、小規模校・少人数学級におけるユニークな教育活動を実践するための教育課程を構想する。 子ども一人ひとりの個性や学習スタイルを生かした教育方法を様々な実践事例から学ぶ機会とする。 ・なお，授業担当者は小学校・中学校・高校での教職経験を有し，現在も頻繁に学校現場の校内研修をサポートしている。その経験を活かして講義・演習を行う。						
(5)授業計画	* 以下の内容の応用編として実践的なプログラムを準備する。 第1回：教育課程の編成理論 第2回：保小中一貫教育の教育課程（1）～資料分析 第3回：保小中一貫教育の教育課程（2）～参観取材～ 第4回：保小中一貫教育の教育課程（3）～課題解決の協議～ 第5回：コミュニティ・スクールの教育課程（1）～資料分析～ 第6回：コミュニティ・スクールの教育課程（2）～参観取材～ 第7回：コミュニティ・スクールの教育課程（3）～課題解決の協議～ 第8回：義務教育学校の教育課程（1）～資料分析～ 第9回：義務教育学校の教育課程（2）～参観取材～ 第10回：義務教育学校の教育課程（3）～課題解決の協議～ 第11回：諸外国の教育課程（1）～フィンランド～ 第12回：諸外国の教育課程（2）～ニュージーランド～ 第13回：日本の特色ある私学の教育課程 第14回：ふり返りとまとめの講義						
(6)成績評価の方法	・事例のレポート報告の内容・水準（50％）と，討論やグループワークにおける実績等（50％）を総合的に評価する。 ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90％以上 秀，89-80％ 優，79-70％ 良，69-60％ 可，59％以下 不可						
(7)成績評価の基準	・卓越している...地域の実情や学校ごとの特徴に応じた教育課程の編成とその実践のあり方を考えられる専門的知識を身につけ、教育課程の編成能力の基礎を身につけている。 ・かなり上である...地域の実情や学校ごとの特徴に応じた教育課程の編成とその実践のあり方を考えており、教育課程の編成に必要な知識を身につけている。 ・やや上にある...地域の実情や学校ごとの特徴に応じた教育課程の編成とその実践のあり方を考えており、多様な教育課程の事例を理解している。 ・水準にある...地域や学校の実情に応じた教育課程の編成に関する基本的な知識を身につけている。						
(8)事前事後学習の内容	・eALPSにアップロードされた授業資料をダウンロードするなどして予習ないし復習を行うことが必須となる。 ・日頃から文部科学省や中央教育審議会の議論，さらに地方教育委員会の動きなどに関心をもって授業に参加できるよう，教育の最新事情をeALPSにアップロードするので，それらを適宜参照しておくこと。						
(9)履修上の注意	・教育方法学の専門性の高い授業内容となるため、受講希望者は事前に相談をしてほしい。 ・長野県内外の学校現場をフィールドワークする活動と並行して探究していくので、フィールドワークに積極的に参加できる学生を歓迎する。						
(10)質問，相談への対応及び連絡先	・対面またはオンラインで質問や相談に応じる。 ・メール（hfusegi@shinshu-u.ac.jp）にて事前にアポイントメントをとること。						
【教科書】	なし（毎回授業に必要な資料をeALPSにアップロードする）						
【参考文献】	柴田義松『教育課程論』学文社 天野正輝『カリキュラムと教育評価の探究』文化書房博文社 木村泰子・工藤勇一・合田哲雄『学校の未来はここから始まる』（株）教育開発研究所 田中耕治『カリキュラムをつくる教師の力量形成』教育開発研究所 伏木久始・峯村均『山と湖の小さな町の大きな挑戦』学文社 奈須正裕・伏木久始『「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充実を目指して』（北大路書房						

【参考文献】	)
--------	---